

ホン怖風で

東京都新宿区某所

松尾 「あれは引越してから三カ月：

大学も始まり、新しい環境にも慣れてきたころのことです。」

料理をして朝支度をしている松尾

朝食を食べ時計を目にする

松尾 ヤベッ

鍵を持ち急いで部屋を出る松尾

タイトル『謎の男』

近くのバス停まで走って向かう松尾

松尾 はあ…はあ…これ間に合うかな

曲がり角でジツパーのついた覆面をかぶりスーツを着た男とぶつかる

松尾 あっ！すいません

男 …

松尾 ほんとすいません

一礼して去る松尾、それをじっと見つめる男

「ここになんか入れてもいいかも」

大学で昼食を食べ友人と話す松尾

友人 なあ、あの噂知ってる？

松尾 え？何？

友人 噂だよ、噂

下校の時に出るっていう幽霊の噂

松尾 へー

どなんん？

友人 なんかあ…

(変な音と一緒に真っ赤な頭とまっ白い手が追ってくんだって)

ここなんか気に入らない

松尾 なんだよそれ

友人 まあ噂だからこんなもんだよ

松尾 まあな、ははっ

松尾 「あの時の私はまさかあんなことになるとは夢にも思っていませんでした。」

夜七時くらい帰路に就く松尾

時計を見る

松尾 はあ、またこんな時間だ

友人 最悪だよ

なんでこんな理工忙しいんだよ

松尾 なっ、大学つてもっと楽なもんだと思ってたよ

友人 全くだ

あっ、オレこつちだから

松尾 おお

また明日

友人 また明日

友人と別れ一人になる

場面かわる

一人帰路に就く松尾

すると後ろから足音と「ジジジ」という妙な音が…

松尾 私が足を速めても後ろから近づく足音と「ジジジ」という奇妙な音はどこまでも

付いてきました。

後ろを振り向く松尾

後ろには赤い火の玉のようなものと白い手が

松尾 うわっ

走り出す松尾

公園に逃げ込む

松尾 はあはあ

な…なんだよあれ

後ろを振り向く松尾

松尾 はあはあ…

何かにぶつかる松尾

白い手が口に就いているファスナーを開けながら立っている男

“ジジジ”

松尾 う…うわああああ

走ってトイレの個室に逃げ込む

松尾 はあはあ

“ジジジ”

口を押さえおびえる松尾

“ジジジ”

トイレに入ってくる音

個室の前で止まるが外に出ていく音

松尾 ははは

なんだよあれ

明日みんなに教えてやろー

不意に上を向く松尾

上から赤い顔が

松尾 うわあああああ

男 うわあああああ

松尾 え？

男 あっすいません

ノックするべきでしたよね

松尾 あっ…いや…

男 とりあえずドア開けてもらえます

松尾 あっ…はい

ドアを開ける

松尾 「男は朝おとしたハンカチお届けてくれただけでした。

これ以降男が現れることは二度とありませんでした。」